

ワールドキャンパスインターナショナル
2009 年度プログラム
概要報告



<目 次>

1．2009年度プログラムの全体概要	
(1) スケジュール	1
(2) 参加者	2
2．春季プログラムの活動概要	
(1) 第1セッション	3
(2) 第2セッション	4
(3) 第3セッション	6
3．夏季プログラムの活動概要	
(1) 第1セッション	9
(2) 第2セッション	11
(3) 第3セッション	13
4．今回の成果と今後の課題	
(1) 成果	16
(2) 課題	16
(3) 関係者の感想	17

参考資料

- ・ 参加者リスト
- ・ 各地協力組織（代表）リスト
- ・ スタッフリスト
- ・ 協力企業・団体等

1. 2009 年度プログラムの全体概要

(1) スケジュール

2008 年度に続き、春、夏の 2 プログラム制を継続した上で、参加者や地域関係者の意見を整理し、1 セッションを 2 週間として、セッション間にブレイクを設けた。

短い期間で参加しやすくなるとともに、複数セッションの参加者にとっては、ブレイク中は自由行動ができて個人旅行的な柔軟性も付加できた。

1 都市 1 週間で地域の協力組織は特に取り組みたい活動に絞ることができ、特徴が明快になった (= “地域テーマありき”ではなく、企画者が地域住民が外国の若者たちと一緒に体験できたら楽しいと思う活動を選ぶことにした)。

夏季プログラムの第 1 都市は当初、長野県上田市を予定していたが、新型インフルエンザに対する全県的な方針によってキャンセルとなり、急遽長崎県大村市の協力を得て変更した。

【春季プログラム】

セッション	日程	都市名	主な活動
第 1 セッション	3 月 9 日～3 月 17 日	大阪府吹田市	EXPO イベント、関大サークル体験
	3 月 17 日～3 月 23 日	奈良県宇陀市	自然体験、伝統文化(茶、刀等)体験
第 2 セッション	3 月 26 日～4 月 4 日	千葉県我孫子市	環境ウォーク、子ども企画による交流
	4 月 4 日～4 月 9 日	愛知県豊田市	トヨタ見学、在日外国人ディスカッション
第 3 セッション	4 月 12 日～4 月 20 日	長崎県大村市	障害者イベント、原爆資料館見学、武道体験
	4 月 20 日～4 月 26 日	熊本県熊本市	水俣病施設・赤ちゃんポスト等訪問

【夏季プログラム】

セッション	日程	都市名	主な活動
第 1 セッション	7 月 5 日～7 月 13 日	長崎県大村市	小学校教師体験、原爆資料館見学、武道体験
	7 月 13 日～7 月 21 日	東京都多摩市	多摩/メトロポリタンツアー、障害者施設
第 2 セッション	7 月 25 日～8 月 4 日	茨城県水戸市	高齢者施設交流、ウォークラリー
	8 月 4 日～8 月 12 日	茨城県取手市	商店街 PR 支援、凧揚げ大会
第 3 セッション	8 月 16 日～8 月 25 日	熊本県荒尾市	地域遺産 PR 支援、熊本城ウォークラリー
	8 月 25 日～8 月 31 日	広島県広島市	平和記念館見学、お好み焼き体験

(参考)

【2008年度春季プログラム】

日程	都市名	地域活動テーマ
2月11日～2月25日	長崎県大村市	福祉・平和
2月25日～3月4日	熊本県熊本市	いのち
3月4日～3月14日	熊本県荒尾市	地域再生
3月14日～3月23日	大阪府吹田市	グローバルゼーション(EXPO)
3月23日～4月2日	奈良県宇陀市	世界の宗教
4月2日～4月14日	千葉県我孫子市	環境(谷津、リサイクル)

【2008年度夏季プログラム】

日程	都市名	地域活動テーマ
6月23日～7月7日	長野県上田市	農業と食育
7月7日～7月17日	東京都多摩市	東京再発見(ベッドタウンと都心)
7月17日～7月28日	茨城県取手市	文化とまちづくり
7月28日～8月4日	茨城県水戸市	資源と環境(原発)
8月4日～8月11日	広島県広島市	平和

(2) 参加者

プログラムの枠組みを参加しやすくするとともに、特に夏季プログラム前の参加者募集を強化し、日本国内にいる留学生や日本人学生を対象とする説明会も開催した。

春季の参加者数は前年並にとどまったが、全体として申込者数が増加し、特に夏季は多くの参加者が得られた。

名古屋外国語大学からの継続的な参加、早稲田大学や中央大学での説明会を通じた参加、地域協力組織やホストファミリーの家族の参加など、日本人の参加が安定してきた。

長崎大学留学生の春夏連続の参加、アジア太平洋大学からの体験的な参加などを通じて国内留学生のニーズを確認できた。

春季プログラム：14カ国、23名(各セッション人数：14、14、7)*スタッフ5名除く

夏季プログラム：18カ国、35名(各セッション人数15、16、17)*スタッフ6名除く

(参考)

2007年度プログラム：15カ国、39名

2008年度春季プログラム：13カ国、23名

2008年度夏季プログラム：12カ国、22名

2. 春季プログラムの活動概要

(1) 第1セッション

スケジュール

日付	概要
3月9日(月)	関西空港・伊丹空港 吹田集合、対面式
10日(火)	オリエンテーション(暮らしガイド、イベント準備等)
11日(水)	〃 (吹田紹介、イベント準備)
12日(木)	関大部活体験、関大・青年会議所交流
13日(金)	民博レクチャー・関大生と民博リサーチ
14日(土)	ホストファミリーデー
15日(日)	万博記念イベント「ABC フェスタ」、ありがとうイベント
16日(月)	休日
17日(火)	移動(自由時間@京都) 宇陀、対面式(持寄りパーティ)
18日(水)	宇陀紹介、自然ウォークラリー
19日(木)	高齢者福祉施設「室生園」訪問、室生寺見学
20日(金)	休日 希望者オプション: 東大寺ツアー
21日(土)	ホストファミリーデー
22日(日)	日本文化体験(日本刀、茶道) ありがとうイベント
23日(月)	関空・大阪市内解散

ハイライト

大阪府吹田市

ユニークな地域資源である「万博」を活かし、地元の関西大学の英語サークルの学生の協力により、活動を企画・実施した。

- 世界的にも貴重な資料や高度な研究機能を誇る国立民族学博物館(万博記念公園内)において、WCIメンバーと関大生がグループに分かれ、衣食住のテーマに沿って担当エリアの展示をリサーチし、その結果をまとめて、それぞれの方法で他グループに対してプレゼンテーションを行い、優勝グループを選んだ。
- 万博記念の日に行われる「ABC フェスタ」において、地元のコーヒー会社に協力し、コーヒーなどの販売を行うとともに、ミニステージでのPRと国際交流を図った(売上げの一部は協力組織の活動費に還元)。



奈良県宇陀市

山間の小集落という環境を活かし、地域をあげた協力により、緑深い自然環境と歴史・文化の体験を中心とした活動を行った。

- ・ 地区内をもれなく回るコースを設定し、山道や商店などのポイントでクイズやゲームを行い、グループ別に点数を競うウォークラリーを行った。
- ・ 国宝の室生寺を見学し、仏教に関するレクチャーを受けたほか、実際に日本刀に触れながら地域在住の刀鍛冶から話を伺うなど、日本人でもあまり経験のできない貴重な歴史と伝統文化に直接触れる体験を得た。



参加者の感想

<最も心に残った活動>

- ・ 関大生との民博リサーチ、関大生との活動全般（毎日一緒に友だちになった）
- ・ ウォークラリー（楽しかったが疲れた）、日本刀体験

<感じたこと>（一部）

- ・ EXPO イベントでの活動のコンセプトと内容の関係が少しわからなかったが、都会（大阪）と自然（奈良）の両方を見ることができてよかった



(2) 第2セッション

スケジュール

日付	概要
3月26日(木)	成田空港・東京駅 我孫子集合、対面式
27日(金)	オリエンテーション（暮らしガイド、我孫子紹介等）
28日(土)	ホストファミリーデー
29日(日)	小学生サッカー交流、ホストファミリー（HF）持寄りパーティ

30日(月)	谷津散策、日本文化体験(貝合せ、神楽)
31日(火)	オリエンテーション(イベント準備)
4月1日(水)	休日
2日(木)	自然ウォークラリー(リサイクル意見交換)
3日(金)	ありがとうイベント
4日(土)	移動 豊田、対面式
5日(日)	ホストファミリーデー
6日(月)	ボランティア団体「あすて」訪問(日本文化体験:着付け、桜) ブラジル子女支援団体「子どもの国」訪問・ディスカッション
7日(火)	トヨタ工場・トヨタ会館見学、豊田市表敬訪問
8日(水)	豊田市国際交流協会(TIA)紹介、ありがとうイベント(持寄りパーティ)
9日(木)	中部国際空港・名古屋市内解散

ハイライト

千葉県我孫子市

東京のベッドタウンとしての開発が依然進む地域の課題として、身近な環境保全をテーマにした活動を中心としている。

- ・ 公共施設の建設が市民による活動で中止になった谷津エリアを散策しながら景色や植物などをスケッチし、それを貝に描いて平安時代からの遊び“貝合せ”を体験した。
- ・ 水質悪化に悩んだ手賀沼の周辺を小学生と一緒にゴミを拾いながら歩き、集めたゴミを分別して、リサイクルについて意見を交換した。



愛知県豊田市

日本で最も有名な企業城下町として、トヨタを中心としながら、多様な側面から街の国際化を考える機会を設定した。

- ・ ボランティア団体を訪問して研修滞在中の海外のトヨタ社員の妻と交流し、また、ブラジル人労働者の子どもたちの勉強を支援する NPO では国際化に伴う教育や子育ての課題について意見を交換した。



参加者の感想

<最も心に残った活動>

- ・ 貝の絵付けと日本文化体験、
- ・ 子どもの国（外国人子女支援施設） 着物で桜体験、トヨタ見学

<感じたこと>（一部）

- ・ 環境についてディスカッションする時間が欲しかった
- ・ トヨタでもう少し深い意見交換ができればよかった、豊田市滞在は短かった



(3) 第3セッション

スケジュール

日付	概要
4月12日(日)	福岡空港・長崎空港 大村集合、対面式
13日(月)	オリエンテーション(暮らしガイド、大村紹介、イベント準備)、大村市表敬訪問
14日(火)	〃 (イベント準備等)
15日(水)	障害者イベント「ふれあいのつどい」
16日(木)	長崎原爆資料館見学・ディスカッション
17日(金)	休日 希望者オプション：弓道体験
18日(土)	少林寺拳法体験、ありがとうイベント、さよならパーティ
19日(日)	ホストファミリーデー
20日(月)	移動 熊本(自由時間@市内) 対面式(熊本紹介)

21日(火)	熊本城見学+大学生とツアー、日本語学習
22日(水)	慈恵病院「こうのとりのゆりかご」見学・ディスカッション
23日(木)	水俣病資料館、リサイクル企業「エコボ水俣」見学
24日(金)	プログラムまとめ、午後自由
25日(土)	午前ホストファミリーデー、ありがとうイベント
26日(日)	福岡空港・熊本市内解散

ハイライト

長崎県大村市

毎年恒例となっている障害者のイベントに参加することにより、通常はほとんど機会のない障害の種類を越えた交流の要となっている。

- ・ 各国の障害者福祉の状況について意見交換するとともに、長崎の地域性を活かし、原爆資料館への訪問と“語り部”との質疑応答などに基づいて、平和について議論を行った。
- ・ 希望者へのオプションではあるが、実際に道着を着けての弓道体験は非常に人気があり、少林寺拳法と合わせて、日本の格闘技における精神面も学習することができた。



熊本県熊本市

他地域にない特徴として、“赤ちゃんポスト”や水俣病資料館に関して考えることを通じて、日本だけでなく、各国の社会や環境をめぐる考え方について意見交換する機会ができた。

- ・ 「こうのとりのゆりかご」(赤ちゃんポスト)が作られた背景にある親子や社会の問題や、水俣病を深刻化させた社会や地域経済の状況など、社会経済の発展と“いのち”について議論した。
- ・ 地元大学生の協力を受けて、クイズでチェックポイントを探すスタンプラリーを熊本城で行ったり、上記の議論に日本人も参加してもらうなど、できるだけ多くの人といろいろな方法で交流・意見交換できるよう工夫した。



参加者の感想

<最も心に残った活動>

- 弓道、ふれあいのつどい、原爆資料館
- 慈恵病院、水俣病資料館

<感じたこと> (一部)

- ふれあいのつどいがよくオーガナイズされていた、会う人全てがとてもフレンドリーだった、もう少し外での活動があり地域の人と交流できればよかった
- 慈恵病院に行く前に「いのち」について議論をしてから見学に臨んだのは大変良かった



3. 夏季プログラムの活動概要

(1) 第1セッション

スケジュール

日付	概要
7月 5日(日)	福岡空港・長崎空港 大村集合、対面式
6日(月)	オリエンテーション(暮らしガイド、大村紹介、イベント準備)、大村市表敬訪問
7日(火)	休日
8日(水)	長崎原爆資料館見学・ディスカッション
9日(木)	オリエンテーション(イベント準備等)
10日(金)	竹松小学校訪問
11日(土)	少林寺拳法体験、ありがとうイベント
12日(日)	ホストファミリーデー
13日(月)	移動(空路+バス) 多摩、対面式
14日(火)	障害者施設「桜の丘学園」訪問、外国語学習中市民との交流(持寄りパーティ、日本文化体験:書道、茶道、囲碁将棋等)
15日(水)	東寺方小学校訪問(教師体験) 多摩市表敬訪問
16日(木)	休日
17日(金)	中大生と多摩ニュータウンツアー
18日(土)	中大生と東京“メトロポリタン”ツアー
19日(日)	ホストファミリーデー
20日(月)	ありがとうイベント *市民英語劇「CALL」にも参加
21日(火)	成田空港・東京都内解散

ハイライト

長崎県大村市

急なスケジュール変更によって今年2回目の訪問となったため、恒例の障害者イベントは不可能だったが、代わりに小学校の日常のカリキュラムに参加した。

- ・ 従来よく見られるような、体育館で横断幕を飾り対面で歌を歌うような“交流会”ではなく、普段の小学校の一日をそのまま体験することを通じて、日本の小学校教育を直接体験できるとともに、小学生や教師にも貴重な機会を提供することができた。



東京都多摩市

唯一の東京都内の地域であり、また大学が多いという特徴を活かし、中央大学の国際交流サークルの学生を中心として、多摩と東京を多角的に知るツアーを実施している。

- ・ 多摩ニュータウンの歴史、都市計画や市民活動などについて知るツアーとともに、5つのグループに分かれ、東京都心を若者の目線で見るとツアーを行った。
- ・ できるだけ多くの地域住民と交流するという趣旨のもと、重度の知的障害者の施設への訪問、外国語を学習中の高齢者の企画による文化体験イベント、小学校での教師体験、市民による英語劇での共演などを実施した。



参加者の感想

<最も心に残った活動>

- ・ 長崎原爆資料館、竹松小学校体験
- ・ メトロポリタンツアー、外国語学習中市民との交流会

<感じたこと> (一部)

- ・ 自然に近く美しい街と超暖かい人たち、知っているかと思っていることと実際に経験して感じることは違う(原爆について)
- ・ とても多くを少しずつ体験できたように感じる、LOC 同士が仲が良い、夏祭り!、多摩ツアーはもう少し双方向型・体験参加型の工夫が必要かもしれない



(2) 第2セッション

スケジュール

日付	概要
7月25日(土)	成田空港・上野駅 水戸集合、対面式
26日(日)	オリエンテーション(暮らしガイド、水戸紹介)、水戸ツアー
27日(月)	“(イベント準備)、水戸市表敬訪問
28日(火)	市民交流@高齢者保健施設「ふれしあ」(日本文化体験)
29日(水)	HFとウォークラリー、 午後ホストファミリーデー
30日(木)	特別養護老人ホーム「すずらん苑」訪問
31日(金)	ありがとうイベント
8月1日(土)	HF交流会(手工芸、料理、持寄りパーティ)
2日(日)	ホストファミリーデー
3日(月)	午前茨城県庁表敬訪問、 午後自由
4日(火)	移動(自由時間@モール) 取手、対面式
5日(水)	エクソンモバイル若手社員と異文化体験ワークショップ(品川)
6日(木)	取手紹介(地元高校生)、商店街ツアー・PRビデオ作成
7日(金)	キャノン取手工場見学、日本文化体験(どじょうすくい、琴、南京玉すだれ)
8日(土)	ありがとうイベント *前日の体験文化披露
9日(日)	ホストファミリーデー
10日(月)	休日
11日(火)	HFと凧作り・凧揚げ、持寄りパーティ
12日(水)	成田空港・上野駅解散

ハイライト

茨城県水戸市

夏休み期間であることから、ホストファミリーを含む、多くの地域住民と直接触れ合える企画を中心にスケジュールを立てた。

- ・ 水戸市のボランティアガイドによる観光地ツアー、大根細工、陶芸、スポーツ吹き矢など高齢者のサークル活動、特別養護老人ホームへの訪問などのほか、水戸市及び茨城県への表敬訪問を行った。
- ・ ワールドキャンパス in 水戸のメンバーが、活動実施のための資金調達手段として開いている手工芸などのカルチャー講座を一緒に体験した。



茨城県取手市

東京近郊の住宅地としての開発は進んでいるものの商店街などのにぎわいが衰える中で、地域を元気にすることを主なテーマとして念頭に置いている。

- ・ 東京芸大のOBが取り組んでいる「百年のれん」(のれんデザインなどを通じた老舗PR)の対象店4店に協力を求め、WCIメンバーがグループに分かれて、PRビデオをまとめた。
- ・ 毎年正月に行われている地域行事である凧揚げ祭りをヒントに、地元の凧づくり・凧揚げ名人の協力を得て、ホストファミリーとともに凧づくり・凧揚げを行った(真夏の“国際”凧揚げ祭りも恒例にすることを目指して)。

東京周辺での滞在時にエクソンモバイル社の若手社員と体験共有することを継続しており、今回は取手滞在中に実施した。



参加者の感想

<最も心に残った活動>

- ・ 特別養護老人ホーム訪問、ウォークラリー
- ・ 老舗PR、エクソン・ワークショップ

<感じたこと>(一部)

- ・ 納豆は最悪～(笑)! 歴史が深い、国際交流にも積極的のような気がする
- ・ 水戸の料理デー、取手の凧デーともに、1日の中の動きをもう少しメリハリをつけて、いろいろな人と交流できるように企画してはどうか
- ・ ありがとうイベントが最後に来るようなスケジュール調整が望ましい



(3) 第3セッション
スケジュール

日付	概要
8月16日(日)	福岡空港 荒尾集合、対面式
17日(月)	オリエンテーション(暮らしガイド、イベント準備)、荒尾紹介(荒尾市長)
18日(火)	熊本城見学+大学生とツアー、慈恵病院「こうのとりのゆりかご」見学・ディスカッション
19日(水)	休日
20日(木)	保育園児交流、オリエンテーション(イベント準備)
21日(金)	荒尾と炭鉱の歴史レクチャー、万田坑見学・PR コンセプト検討
22日(土)	ありがとうイベント
23日(日)	ホストファミリーデー
24日(月)	菊池溪谷・阿蘇山ツアー
25日(火)	移動 広島、対面式
26日(水)	平和記念館見学・ディスカッション、ゴミ処理施設見学
27日(木)	休日
28日(金)	お好み焼き体験(オタフクソース)、宮島ツアー(自由時間)
29日(土)	ホストファミリーデー
30日(日)	ありがとうイベント *スペシャルオリンピックスと交流
31日(月)	関西空港解散(早朝に広島出発)

ハイライト

熊本県荒尾市

日本各地で課題となっている地域の個性を活かした活性化に取り組む街として、前回の「地域再生事業」の体験に続き、市にアイデアを残すことのできる活動

を企画した。

- ・九州を中心として進められている世界遺産登録の一部である旧万田坑（炭鉱遺跡）について、地域で活動に関わる人たちとともにグループに分かれ、世界各国の若者の目線から PR コンセプトを検討した。
- ・熊本の協力組織と連携し、熊本城ツアーや慈恵病院訪問を行い、他地域との協力や企画の共有などの実験を行うことができた。



広島県広島市

これまでと異なり、原爆記念日を避けた日程として、原爆だけにとどまらず、広島が多様な側面を知ることができるよう活動を構成した。

- ・平和記念館で“語り部”の話を聞き、第1セッションからの参加者の長崎での体験なども踏まえながら、平和について議論した。
- ・地域住民と交流する活動はなかったが、ありがとうイベントにスペシャルオリンピックス（知的障害者のスポーツイベント）の皆さんを招待した。



参加者の感想

<最も心に残った活動>

- ・万田坑 PR、阿蘇ツアー
- ・お好み焼き体験、ゴミ処理場見学

<感じたこと>（一部）

- ・自然がいっぱい、グリーンランド！、暖かい人々
- ・原爆、平和、複雑な交通、都市計画

- 他のセッションに比べて、ディスカッションが少なかったかもしれない、もう少し意見交換したかった



4. 今回の成果と今後の課題

(1) 成果

参加者の満足度の向上

- ・ 留学や観光旅行とは異なる体験を求める対象者層のニーズと期間と活動内容のバランスが適合してきた
- ・ ホストファミリーを含む地域の人々と一緒に活動が増え（多様化し）、より多くの人との深い交流ができるようになってきた
- ・ 2週間のプログラムにおけるありがとうイベントはチームビルディング的効果が非常に高いことが確認できた（ただし、1~2日間で準備するため、地域にとっては“見る”パフォーマンスではなく、一緒に楽しむ“感謝祭”的位置づけが一層明瞭になってきた）

各地協力組織メンバーの自信向上

- ・ 各地域が3回目の実施となり、運営ノウハウが蓄積されるとともに、活動内容の企画における課題の掘り下げが進んでいる（メインの活動が絞られてきた）
- ・ 活動の質の向上に向けて、組織のメンバー以外の地域人材との連携が進んでいる
- ・ 参加者の満足度の向上を現場で実感している

人的つながりの拡大・強化

- ・ 過去の参加者からの口コミによる参加希望が継続的に増えている
- ・ 日本人参加者の中にホストファミリーや協力組織の家族からの参加が生まれてきた
- ・ 過去の参加者からスタッフとしての参加希望が増えている
- ・ ホストファミリーから協力組織メンバーになる動きが各地で出てきた

(2) 課題

プログラムの枠組みの見直し

- ・ 春は参加者募集が困難であり、同じモデルでの春実施は事業として成立しない
- ・ 夏は各国により夏季休暇の期間が異なり、特に米国は6月も参加の可能性が大きい

プログラムの構成要素の整理

- ・ 地域独自の活動の質を上げていく一方で、どのセッションでも共通に体験できる要素が必要である
- ・ 参加者からはディスカッション等の教育的要素を望む声があり、地域からは各参加者の出身国の文化を知ることのできる機会を望む声がある
- ・ 一方で、伝統文化体験など、重複する可能性の高い要素について、地域間の情報共有により事前調整が必要である

各地の運営ノウハウの安定化

- ・ 各地で蓄積されてきたノウハウや問題点を共有し、可能なところはフォーマット

化・仕組み化することで効率化を図ることが必要である

- ・ 各地で運営が効率化できれば、企画内容の向上に注力できるようになる

各地組織および地域への寄与

- ・ 現時点で WCI から各地協力組織への資金助成は困難だが、例えば、地元製品の PR や物販など、協力組織の資金調達の支援あるいは労働による価値提供などは可能である（むしろ、活動内容の多様化につながる）
- ・ 商店 PR や地域の観光資源の開拓など、地域へのわかりやすい寄与も重要である（行政への PR やメディアへのアピール、ひいては地域での協力人材増加にもつながる）

取手での老舗 PR ビデオ製作、荒尾での世界遺産登録の推進方策検討など

ブレイク中の支援

- ・ 複数セッションの参加者が、ブレイク中の滞在先や移動手段の手配など、直前まで計画を立てず、ホストファミリーや協力組織メンバーなどに迷惑をかけるケースが多発している
- ・ 前倒しでの情報提供と計画促進に努めるほか、オプションとして、既存の企画（例：多摩の英語キャンプ）の提示なども検討する必要がある

(3) 関係者の感想

<参加者からの一言>

- ・ 言葉も知らない国でのたった 2 週間で、世界中からの友人と新しい家族ができた。国際的なことに対する自分の関心を強化し、ある意味で人生を浄化してくれた。自分の人生の目標と規律を高めてくれた。必ず日本に帰ってきます！ありがとう！
- ・ テレビで見たことのある大都市東京が一番心に残ると思っていたが、違った。郊外の小さな街、家庭、普通の暮らし、そんな体験が驚くほど素晴らしかった！
- ・ 自分について気付くことが多かった。予期していなかったような変化があったと思う。参加できて本当に良かった。
- ・ 2 週間だけの参加だったが、多分一生忘れないと思う。互いを愛するには言葉は必要ないことがわかった。日本の家族を本当に愛しています。
- ・ 何かを得るには進まなければならない、待っていてはもったいない。日本がますます好きになった。
- ・ 一人ひとりのつながりが平和を保つためには最も重要である。最初は政府やメディアなどのせいで疑いを持っていたが、参加して確認できた。
- ・ ワールドキャンパスのメンバーとスタッフの団結力が好きです！

<ホストファミリーからの一言>

- ・ 外国人に対する先入観、偏見があったが、身近に接することで、言葉の壁はあるがグローバルな感覚が身についた。

- ・ 娘と同世代のメンバーを受けたことにより、若い人たちに耳を傾ける父親の姿を見られた。普段は“自分が常に正しい”的な考えで娘を見ている。
- ・ 常に何かを学ぼうという姿勢が家族にとっても良い影響を与えてくれた。どんな話にも一生懸命答えてくれて時間を忘れる夜が何日も続いた。
- ・ 普段日本人では考え付かないような観点からの質問や指摘があって、さまざまな違いを認識しました。
- ・ ホストファミリーデーに茶室や庭園を見て、日本のよさに感動したと言っていた。自分たちも忘れていたようなものを、外から見て改めて素晴らしいと感じさせられた。
- ・ 最後の日に「来年も日本に、うちに来てね」と言ったのは本当に心から出た言葉でした。人と人が接するのは、心があればそんなに大変なことではないですね。
- ・ とても刺激を受けた。専業主婦で狭い世界に閉じこもりがちなので、もっといろいろな人たちと出会える機会を見つけ、積極的に関わっていきたい。
- ・ 一人ひとりが考え話し合い国際交流に努めること。それは大げさではなく、自然体で社会に関わり、自分自身を見つめ直し、少しずつより良い社会を作り出そうと一人ひとりが意識すること。その小さな積み重ねで世界が変わるかなという小さな希望。ワールドキャンパスが来ることがきっかけで生まれた希望です。

<エクソン社員からの一言>

- ・ 海外の方の積極的な姿勢に感化されました。ゲーム感覚で様々なことを一緒にでき、考え方や行動が日本人と異なっていることを身をもって体験できました。同時に、言語スキルがなければ伝えられず歯がゆい思いもしました。英語のレベルアップを目指す良いモチベーションとなりました。少しずつ前進していきたいと思います。
- ・ 年齢が近く、マネジメントの方々と英語で話すときのような緊張感もなく、自由に会話を楽しめました。
- ・ 英語を話す貴重な機会であり、グローバルリーダーシップについて考えることもできたが、社会人との交流の方が効果は高いかもしれない。

参考資料

参加者リスト

【春季プログラム】

	氏名	年齢	出身国	セッション
1	Grazia Cornejo	20	カナダ/エルサルバドル	1, 2, 3
2	Jaime Hernandez	24	メキシコ	2
3	Philip Hetjens	25	ドイツ	1, 2, 3
4	Birgit Leidenberger	33	ドイツ	2
5	Rachel Anderegg	22	スイス	3
6	Daniel Gallion	33	ルクセンブルグ	1, 2
7	Eric Hesin	26	ルクセンブルグ	1
8	Lily Ha	26	デンマーク	1
9	Amanda Roland	20	ノルウェー	1, 2, 3
10	Mustafa Tekke	24	トルコ	2
11	Burcu Tepik	20	トルコ	3
12	David Herbling	25	ケニア	1
13	Amar Tiwari	34	ネパール	2
14	Yohanes Siem	25	インドネシア	2, 3
15	Selly	22	インドネシア	2
16	Amanda Soeprobo	22	インドネシア	1, 2, 3
17	Elitha Adeline	22	インドネシア	2
18	In Kyun Ahn	25	韓国	1
19	Shihoko Maeda	20	日本	1
20	Kaho Kashiwagi	20	日本	1, 2
21	Syoko Mizuno	19	日本	1
22	Nozomi Mizukami	19	日本	1
23	Naoko Bansyo	22	日本	1, 2

【夏季プログラム】

	氏名	年齢	出身国	セッション
1	Hasiyna Gibson	19	アメリカ	1
2	Meghan Kutz	26	アメリカ	1, 2
3	Kevin Nishimoto	19	アメリカ	2
4	Raymon Cheng	19	アメリカ	2, 3
5	Matthew Clyde	22	カナダ	1
6	Elizabeth Cullen	19	カナダ	1, 2, 3

7	David Hollenstein	23	オーストリア	1
8	Ashwin Ramjiawan	20	オランダ	1, 2, 3
9	Maria Lisberg	20	デンマーク	1, 2
10	Torsten Sigversten	23	デンマーク	1
11	Synnove Froiland	25	ノルウェー	1, 2, 3
12	Burcu Tepik	20	トルコ	3
13	Shohruhbek (Sean) Ibragimov	21	ウズベキスタン	3
14	Khaliunaa Chuluunkhuu	25	モンゴル	3
15	Yuhua (Xury) Pan	24	ニュージーランド	1
16	Htwe (Sherilyn) Than Than	24	ミャンマー	3
17	ARUMININGSIH	23	インドネシア	2
18	Ruoshan Gu	24	中国	3
19	Zuxin Hou	23	中国	1, 2, 3
20	Chong Li	23	中国	1, 2
21	Kun Zhang	20	中国	1
22	Desiree Ho	20	香港	2
23	Yulin Chou	22	台湾	1
24	Choi Nak Hyun	25	韓国	3
25	Sangjun Shin	20	韓国	2
26	Chihiro Abe	22	日本	2
27	Rie Hayase	27	日本	1
28	Saki Kawase	19	日本	2
29	Yuki Kuwahara	21	日本	2
30	Nozomi Mizukami	19	日本	2, 3
31	Yuri Nakashima	21	日本	3
32	Tetsutaro Soma	21	日本	3
33	Risa Taniwaki	18	日本	3
34	Naoya Tsuku	21	日本	3
35	Aska Wakumura	19	日本	3

各地協力組織（代表）リスト

	都市名	協力組織	代表者
1	大阪府吹田市	ワールドキャンパス吹田実行委員会	三原 満里
2	奈良県宇陀市	室生国際交流村実行委員会	北森 義卿
3	千葉県我孫子市	住み良いまちづくり研究所	浜崎 慶子
4	愛知県豊田市	財団法人豊田市国際交流協会	高津 康孝
5	長崎県大村市	NPO 法人 Up with おおむら	大隈 和博
6	熊本県熊本市	ワールドキャンパスくまもと実行委員会	前田 香代子
7	東京都多摩市	ワールドキャンパス多摩	橋本 正晴
8	茨城県水戸市	ワールドキャンパス in 水戸	高橋 明子
9	茨城県取手市	とりでホストファミリーの会	飯村 淳子
10	熊本県荒尾市	アッピーありあけ	亀原 了円
11	広島県広島市	ヒッポファミリークラブ西日本	神川 孝紀

スタッフリスト

	担当	氏名	備考
1	総括	西村 紀公	NPO 法人理事長
2	ジェネラルマネジャー（米）	Bob Sloat	参加者リクルート担当
3	ジェネラルマネジャー（日）	安井 英人	地域コーディネート担当

	担当	氏名	備考
1	プロダクション担当	Henning Rodtwitt	ノルウェー
2	プロダクション担当(アシスタント)	Jay Kinsel	アメリカ
3	教育担当	Nicolina Karaolia	キプロス
4	広報担当	Guang Yeung	アメリカ
5	通訳（兼広報担当）	梨本 篤	日本

	担当	氏名	備考
1	プロダクション担当	Jay Kinsel	アメリカ
2	プロダクション担当(アシスタント)	Gabriela Castaneda	メキシコ
3	教育担当	Berthalina Hernandez	メキシコ
4	教育担当(アシスタント)	Adriana Sanzone	イタリア
5	広報担当(インターン)	Janice Tsang	アメリカ
6	通訳(兼広報担当)(インターン)	津田 貴	日本

協力企業・団体等

	都市名	企業・団体名
1	吹田市	ワールドキャンパス吹田実行委員会 吹田市、吹田市教育委員会、吹田商工会議所、吹田青年会議所、国立民族学博物館、日本万国博覧会記念機構、関西大学英会話クラブ、朝日放送株式会社、コカ・コーラウエスト株式会社、花田コーヒ株式会社
2	宇陀市	室生国際交流村実行委員会 宇陀市、室生地域振興センター、室生寺、特別養護老人ホーム「室生園」、東大寺、日本舞踊「利華会」、フレンドリークラブ、刀匠河内隆平、山岡呉服店、室生茶道クラブ、妙円寺
3	我孫子市	住み良いまちづくり研究所 我孫子市、我孫子国際交流協会、我孫子市社会福祉協議会、我孫子市教育委員会、LLP プロベグループ、ギャラリー風、寺島トシエハワイアン・フラ・グループ、あびこレクリエーションクラブ、高野山地区サッカースポーツ少年団、谷津を愛する会、鈴の会、相島工房、旧村川邸、三樹荘、河童音頭八日会、うさぎ工房、郷土芸能古戸はやし連中、書道/絵画/ピアノの講師・演奏の皆様
4	豊田市	財団法人豊田市国際交流協会 トヨタ自動車株式会社、豊田市、財団法人あすて、外国人サークルさくら、NPO 法人子どもの国
5	大村市	NPO 法人 Up with おおむら 大村市、大村市教育委員会・社会教育課・郡地区公民館、大村市弓道協会、大村市少林寺拳法協会大村西支部、長崎県原爆資料館、財団法人長崎原爆被災者協議会、ビッグカントリージャズオーケストラ、ふれあいのつどい2009 実行委員会
6	熊本市	ワールドキャンパスくまもと実行委員会 熊本市、熊本市国際交流会館、熊本市民会館、国際コンベンション協会、熊本 YMCA、パン工房ひまわり、慈恵病院、湯の児スペイン村福田農場、水俣市、エコボ水俣、水俣病資料館、Pステーション
7	多摩市	ワールドキャンパス多摩 多摩市、多摩市教育委員会、多摩市国際交流センター、東京多摩プロバスケットボールクラブ、多摩市立東寺方小学校、関戸公民館、パルテノン多摩、新都市センター開発(株)、東京都立多摩桜の丘学園、中央大学ほか学生の皆さん、春日神社囃子連、たま・まち交流館、多摩市東寺方福祉館、劇団 CALL、(株)ベネッセコーポレーション
8	水戸市	ワールドキャンパス in 水戸 茨城県国際交流協会、水戸市国際交流協会、茨城県社会福祉協議会、水戸市社会福祉協議会南部老人福祉センター、特別養護老人ホーム渡里すずらん苑、水戸市観光振興課、IBS 茨城放送

9	取手市	とりでホストファミリーの会 取手市、取手市教育委員会、取手市国際交流協会、取手第一高等学校生徒会、松陽高等学校英語部、油市、(株)新六本店、田中酒蔵、矢羽根本家、キヤノン取手工場、知的障害者支援 PLS 双仏クラブ “ほほえみ”、どじょっこの会、琴/伝承あそび/尺八の講師の皆様、第0研究室(凧づくり指導)、下総凧の会、岡部商店、小沼新聞店舗
10	荒尾市	アッピーありあけ 荒尾市 政策企画課・秘書室、荒尾市教育委員会社会教育課・社会体育課、荒尾総合文化センター、あらおシティモール、ありあけ国際交流協会、大牟田・荒尾炭鉱のまちファンクラブ、喰堂、グリーンランドリゾート(株)、ベーカリーOWL(アウル)、万田坑ステーション、万田坑ファン倶楽部、万田炭鉱館
11	広島市	ヒッポファミリークラブ西日本 広島市、広島市市民局国際平和推進部国際交流課、広島平和記念資料館、広島市環境局施設部中工場、オタフクソース株式会社(Wood Egg お好み焼館)、スペシャルオリンピックス日本・広島

エクソンモービル(有)、(株)チームビルディングジャパン(ワークショップ協力)
チャイルド・オアシス・プロジェクト(テーマ曲「KIZZUNA」制作)